

# 高野新聞

Vol.122



たかの  
**高野たけし**

**無所属 51歳**

逗子市議会議員（6期）

- ・議会運営委員会委員長
- ・総務常任委員会委員
- ・基地対策特別委員会委員

## 高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

市民の皆様から頂いたご意見・ご要望を踏まえて行った令和6年第3回定例会における一般質問の一部をご報告いたします。

### 津波避難ビル・いざという時への備え

現在、本市には津波指定緊急避難場所の建物は31棟あり、その内13棟がマンションや民間の事業所となっています。これらマンションや民間の事業所においては、市との間で【津波一時避難場所の使用に関する協定書】を締結していますが、その中には「一時使用の要請をしたとき又は施設に自主的に避難してきた者がいるときは、施設に職員を派遣し、避難施設の運営に携わる」等の項目も含まれています。発災時に市の職員が津波避難ビルに赴き、対応に当たることができるほど人的余裕、時間的余裕などがあるとは思えません。そのため、市とマンションや民間事業所の間で締結している協定書においては、より現実的な内容に変更するべきと考え市長の見解を求めたところ、古いものでは20年近く経過している協定もあることからヒアリングによる状況確認を行い、必要に応じて内容の見直しを進めていくとの回答がありました。

また、立地や高さ、備蓄品の有無など、それぞれの避難ビルの条件に合わせた発災時マニュアルを作成すべき旨提言したところ、各施設が置かれている状況を勘案した上でマニュアルの作成についても考えていきたいとの回答が担当部長よりあったところです。

## 政治資金の残り 67,211 円

（令和6年6月～令和6年8月の内訳）

支出・・・ポスター掲示用両面テープ 2,898円

### どーなる？ 渚マリーナ

過去、田越川には多くの不法係留船舶があり、その解決のため神奈川県が県有地を小坪マリーナに貸付、渚マリーナが整備されました。この時の賃貸借契約期間は20年間で、その期限が令和9年3月31日となっています。今年に入り、県が契約者に対して渚マリーナ閉鎖に関するアンケート調査を実施したことで、利用者からは不安の声も上がってきています。こうした現状を踏まえ、当該地の今後の活用について県はどのような考えを持っているのか市長に確認したところ、現段階で県からの正式な文書等はきていない。処分するという事になれば県庁内部で土地活用の意向を確認し、活用しないとなれば市に打診があると聞いているため、情報収集を進め市としての判断が出せる準備をしていくとの回答がありました。

### 新たな移動手段で市民生活をサポート

公共交通の脆弱な地域を対象に、デマンドタクシーの実証実験、グリーンスローモビリティの試験的導入の提案など、これまでも新たな地域公共交通を模索してきましたが、いずれも本格導入には至りませんでした。こうした中、労働力不足もあって公共交通機関の利便性が低下する一方、新たな地域公共交通を望む声は一層高まってきているように感じます。そこで、今後の取り組みについて質したところ、今年度中に協議会を立ち上げ、令和7～8年度にかけて地域公共交通計画を策定していきたいとの考えが市長より披瀝されました。

## 藻場再生プロジェクト

リビエラ逗子マリーナで取り組んでいる藻場再生プロジェクトを見学させて頂きました。

マリーナ内の栈橋下の空間や現在使用していない栈橋を利用して早熟カジメ(通常の1/3程度の期間で生育)の苗を付けたロープを海中に。遊走子(種)を付近の海に放出させることで、カジメを増やしていこうという試みです。



2022年から始めたこの取り組みですが、すでに効果は出てきているとのこと。今後カジメが増える事で、ワカメやアカモクなど、他の海藻への食害(アイゴやインダイ、ガンガゼによるもの)を減らせる効果も期待されます。

また、当日海中の状況確認を行っていたダイバーの皆さんも、葉山、横須賀、小田原の海でそれぞれ藻場の再生に取り組んでおり、各地域で行なっている違ったアプローチ方法などもお聞きする機会となりました。

私も仲間と共にムラサキウニの駆除など磯焼け対策に取り組んでいますが、その先の藻場の再生については今回学んだ手法が役立つと感じたところです。

磯焼けとは・・・海藻や海草を魚やウニが食べてしまい、焼け野原のような状態になった海底の状態を指します。磯焼けによりエサも住みかも無くなる事で、その海から魚も一緒にいなくなってしまう事につながり、「海の砂漠化」とも呼ばれます。磯焼けがおきると、藻場が空気中の炭素を固定する役目も期待できなくなります。

## 県道205号の安全対策

県道205号(県道金沢・逗子線)の一部区間(久木5丁目付近)は車道幅も狭く、過去には自転車と車の接触事故も発生しています。こうした現状を少しでも改善すべく、道路管理者である神奈川県横須賀土木事務所に安全対策を求める要望書を提出。今回、自転車走行ピクトグラムや車両に減速を求める路面表示、歩道幅員減少ポールの設置、道路脇の除草、外側線の塗り直しなど、現在の道路構造で出来る対策を講じてくれました。

市内には幅員の狭い道路も多く存在していることを踏まえ、それぞれの道路状況等に合わせた安全対策を引き続き進めていければと考えています。



## 日米合同委員会で進入路の返還を合意

米軍池子住宅地区に隣接する逗葉地域医療センター・市保健センターの進入路(約0.25ヘクタール)が11月30日までに返還されることに。

本市の米軍施設が返還されるのは1978年以来46年ぶりとなります。共同使用となっている池子の森自然公園(約40ヘクタール)についても、行政当局と連携し返還に向けて取り組んでいきたいと思っています。



**あなたの声を高野たけしへ**

Tel / Fax:046-871-7368 E-mail:takano\_zushi@yahoo.co.jp

高野たけしの活動  
ブログはこちらから

